**わがまち企業訪問vol.11 　有限会社　千田清掃**

市内の企業では、どのような製品やサービスが生産され、どのような人が働いているか。企業の思いと働く人の情熱を紹介します。

**エネルギーの地産地消　人と人の縁が、環境を守る**

　　地域の役に立つため、未来に自然豊かな故郷を残すため、幅広い事業を展開しているのが、古川狐塚地区にある有限会社 千田清掃です。

　千田清掃は、約70年にわたり、し尿収集運搬・浄化槽設備管理などで地域の環境衛生を支えてきました。また、時代の変遷とともに限りある資源の有効活用や、暮らしの困り事を手助けする事業に取り組んでいます。

　中でも「バイオディーゼル燃料（以下、BDF）」の製造供給は、環境問題に配慮した最先端エネルギーとして注目されています。

　BDFは、廃食用油（使用済み植物油）を特殊なろ過装置に通し、化学反応させることで生成される燃料です。化石燃料を燃やして生成する軽油に対し、二酸化炭素を排出せずにディーゼル燃料を生成できます。

　きっかけは、地球温暖化や地球環境が問題視され始めた頃、自社の作業車両の排気ガスが環境を汚しているのではないか、と心を痛めたことでした。何より、未来の子どもたちに自然豊かな大崎を残したい、と思い立ち、平成17年から事業に着手したそうです。

　環境問題への取り組みは地域に広まり、現在では、大崎地域の学校給食センターや飲食店、食品工場、一般家庭から廃食用油を収集。千田清掃で製造されたBDFは、自社の作業車両はもちろん、市民バス、市の公用車、大崎地域の工場などで使用され、エネルギーの地産地消につながっています。

　化石燃料に頼ることなく、植物由来の油を使ったエネルギーは、限りある資源の再生を促し、地球温暖化防止の効果が期待できます。

　また、千田清掃では、小・中学校や各イベントで、BDFを使ったバイオゴーカートの試乗や講座を開き、環境教育の周知にも力を注いでいます。

　「世のため・人のため・地球のため」行動するという信念のもと、大崎地域全体で、豊かな自然を守り、明るい未来を子どもたちに残していくことが千田清掃の願いです。

会社概要

社　 名　有限会社 千田清掃

代 表 者　代表取締役 千田信良

所 在 地　古川狐塚字西田77番地

設　 立　昭和27年

社 員 数　45人

事業内容　バイオディーゼル事業、Benry事業（トータルライフサービス業）、し尿・浄化槽汚泥清掃業　ほか

**地域活性化への思い**

　千田清掃では、地域貢献活動の一助として「おおさき鳴子温泉 菜の花フェスティバル」の開催を社員一丸で支援しています。東日本大震災からの復興を応援しようと、鳴子温泉地域への避難者を招待したのをきっかけに始まり、毎年多くの来場者でにぎわいます。

　実行委員会事務局の紺野さんは「地元の資源を生かして、鳴子温泉地域の皆さんとともに開催でき感謝しています。もっと川渡地区を知ってほしいですね」と話してくれました。

**伝統の息吹　第2回　岩出山大蔵流謡曲**

江戸時代、岩出山伊達家は、武士の教養とされた「能」を保護し、祝儀の際、城内の能舞台や有備館などで催していました。当時から、岩出山地域には「大蔵流謡曲」が伝わり、現在も親しまれています。

　起源をさかのぼると、文政５年（１８2２年）、岩出山通丁の湯村という人物が京都で大蔵流を学び、岩出山伊達家に伝え、厚く待遇されたことによります。利吉の没後、子の湯村半兵衛が城中や地域に広めたものが、現在まで大切に受け継がれてきました。

　明治時代に入り、それまで武士だけのたしなみであった能や謡曲は、湯村半兵衛や旧武士によって一般庶民に伝えられ、特に、岩出山通丁地区周辺で暮らしに根付いていきました。

　謡曲は、結婚式、正月の儀礼、家の建前など、人生の節目で催されることが多く、大切な儀式にふさわしい、あこがれの対象だった様子が記録に残っています。

　能の詞（セリフ）である謡曲は、能を演劇に例えると脚本や台本に相当し、物語の語りやセリフで構成されています。能の中での謡曲は、演奏時間が非常に長く、謡曲の一節を切り取った「小謡」がより親しまれてきました。

　昭和初期には、謡曲が暮らしの祝いの場や儀礼で必要不可欠になり、多くの人に普及しました。当時は「道場」という講習会を一週間続けて開き、最後の日の「道場開き」で謡曲を披露して「一人前」とされていたようです。また、この頃には、岩出山通丁地区の熱心な謡曲家のもと、農閑期に旧加美群・旧栗原郡・古川東大崎地区にも泊りがけで足を運び、普及に努めていました。

　道場の中でも「」「」「」という演目は、人気を博したようで、現代でも「謡三番」や「式三番」として謡われています。

　岩出山伊達家から守りつないだ謡は、昭和21年、それまでの謡曲研究会から名称を「岩出山謡曲保存会」と改め、現在にいたります。

　約２００年の時を越えて、旧有備館および庭園や地域の老人会、結婚式などで披露され、今日も、人生の節目にふさわしい歌声が響きます。

写真：大正14年正月、道場で湯村半兵衛から学び、教則本である「謡曲本」を書き写した記録が残っています。